

新築等京町家の考え方について

1 新築等京町家政策が目指すこと

- 「京町家の特性を生かした，京都のまちに将来にわたって相応しい住宅」を推奨し，普及させる。

2 新築等京町家の考え方

- 新築等京町家の3つの目的から，それぞれに対応する以下の5つの項目を指針として設定する。
- それぞれの指針に基づく具体的な設計方法は設計者にゆだね，指針のねらいや，どのような方法があるかの例示，伝統的な京町家ではどのような工夫をしていたか等をガイドブックで解説する。

※ガイドブックの構成等について

- ガイドブックは次のような構成を考えている（新築等京町家の目的，指針の全体像，各指針解説，事例紹介等）
- ガイドブックは，設計者の創作意欲が掻き立てられるような内容になるよう，見せ方等を工夫したい。

新築等京町家の5つの指針

目的	指針	
① 生活文化の継承と発展	【1】 まちに暮らす	隣地の状況，町並みを踏まえて，建物配置やプロポーションを計画する
	【2】 四季や自然を楽しむ	四季や自然を楽しめるよう工夫する
	【3】 大切に使う	大切に長く使い続けられるよう工夫する
② 趣のある町並みの形成	【4】 場所になじむ	地域特性や歴史を踏まえて設計する
③ 伝統技術・技能の継承と発展	【5】 技を感じる	伝統技術・技能を活かす

3 普及させるための方策について

・認証制度

商品としての認証や、個別建物の認証ができる制度を設け、指針に沿った住宅であることを住宅供給事業者等が顧客へPRできるようにする（認証申請時に提出された配慮・工夫事項は公表する）。

・ガイドブック

京町家の特性を生かした住宅が現代においても京都のまちに合った住みやすいものであることをガイドブックで説明し、京都で家を建てようとする人に選んでもらえるようにする。

・表彰制度

他の手本となるような優れたものについて、優良事例として表彰する。

・伝統構法に対する支援

伝統構法で建てられたものについては、在来構法よりも構造計算に手間や費用がかかることを踏まえ、助成金などの支援を行うことを検討する。

・誘導エリア

細街路の再整備を図るエリアで、指針に沿った住宅の供給を誘導する。

新築等京町家 ガイドブック（案）

※ ガイドブックの内容については、議論を踏まえて、修正・改良していきます。

全体像

目的	指針	例示
① 生活文化の継承と発展	【１】 まちに暮らす 隣地の状況，町並みを踏まえて， 建物配置やプロポーシオンを計画する	① 通風，日照に配慮した建物配置とする ② 町並みのもつスケール感に配慮する ③ 開口部の位置などプライバシーに配慮する ④ まちと緩やかにつながる仕掛けをつくる 等
	【２】 四季や自然を楽しむ 四季や自然を楽しめるよう工夫する	① 風や光，自然が感じられる庭を設ける ② しつらい空間を設ける ③ 自然素材を使う ④ 建物内の風通しや日射をうまくコントロール （建物でできる環境調整） 等
	【３】 大切に使う 大切に長く使い続けられるよう工夫する	① 経年変化を楽しめる工夫をする ② 適材適所 材料の性質を活かして設計する ③ メンテナンスしやすいようにする ④ フレキシブルな空間にする ⑤ 建具や部材の再活用ができるようにする 等
② 趣のある町並みの形成	【４】 場所になじむ 地域特性や歴史を踏まえて設計する	① 地域特性を踏まえ，まちになじむデザインとする 等
③ 伝統技術・技能の継承と発展	【５】 技を感じる 伝統技術・技能を活かす	① 畳スペースを設ける ② 木組み，左官等の伝統技術・技能を生かした 構法や材等を採用する ③ 古建具や古材を活用する 等

対象：京都市内の住宅（共同住宅や非木造の住宅も対象とします）

1	～○○○○○～ 各指針を記述しています
ねらい・背景 ○○○○○○○○ 各指針の趣旨や背景について記載しています。 指針を達成するための方法の例示を記載しています。 例えば・・・ ① ○○を設ける ② ○○○○○とする ③ ○○○ようにする ⇒ それぞれの解説は次ページ参照	

1	～○○○○○～ 各指針を記述しています
例えば・・・ ① ○○を設ける ＜ココが京町家！＞ - 京町家では○○○○○ 左ページで示した各例示ごとに、詳しい解説を記載しています。 伝統的な京町家における工夫や知恵などを解説しています。 図面や写真など ＜ポイント・アドバイス＞ ○○○を考えてみましょう。 ○○すると○○できます。 設計する際の注意点やアイデア、アドバイスなどを記載しています。 図面や写真など	

1	～まちに暮らす～ 隣地の状況，町並みを踏まえて，建物配置やプロポーションを計画する
---	--

ねらい・背景

京都のまちにおいては，日常の門掃きや地蔵盆などの年中行事など，共同で物事を行う中で，周囲に気を配りながらも自立を尊重し，多様な価値観を認め合うという「異なる価値観の共存」を可能にする風土が生み出されてきました。

京町家が建ち並ぶまちを歩いていると，ゆるやかに統一された美しい町並みが印象的です。通りから見えない「奥」と呼ばれる奥庭は，お隣や裏の奥庭と連続することで，低層高密な京都のまちなかに大きなオープンスペースを作り出し，各戸に自然の風や太陽の光を効果的に取り入れるとともに，火災時の延焼を防止する役割などを果たしています。こうしたまちの連続性は，京都の先人達が，人とのふれあいやまちとの交流を前提にまちづくりを行ってきたことによるものです。

郊外部においても，道に沿って塀を設けることや，道路から一定のセットバックをするなど，地域の状況に応じた建て方がされています。

住宅を建てる際にも個人の権利が重視され，まちのつながりが軽視されがちな現代ですが，京都の先人達が築いてきた家とまちとの関係をもう一度見直し，継承していくことが大切ではないでしょうか。

このことは，京町家に限らず，京都で住むにあたっては，とても重要なポイントです。お隣やお向い，裏のお宅と協調し，互いに心地よく暮らせることを重視して設計してください。まずは，設計前に，敷地周辺の状況をしっかり調査しましょう！

例えば・・・

- ① 通風，日照に配慮した建物配置とする
 - ② 町並みのもつスケール感に配慮する
 - ③ 開口部の位置などプライバシーに配慮する
 - ④ まちと緩やかにつながる仕掛けをつくる
- ⇒ それぞれの解説は次ページ参照

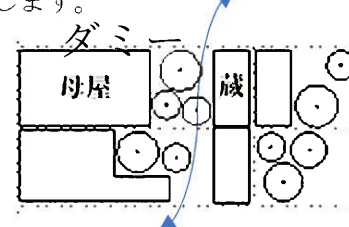
1	～まちに暮らす～ 隣地の状況，町並みを踏まえて，建物配置やプロポーションを計画する
---	--

例えば・・・

① 通風，日照に配慮した建物配置とする

<ココが京町家！>

- ・ まちなかにおいては，奥庭をお隣や裏の奥庭等と連続させることで，オープンスペースを作り出し，各戸に自然の風や太陽の光を効果的に取り入れることができます。
- ・ 郊外部においても敷地内の建物配置を周辺の建物と合わせることで，通風や日照を最大限生かすことができます。
- ・ またオープンスペースは，火災時の延焼を防止する役割などを果たします。



連担の解説図

<ポイント，アドバイス>

- ・ 隣接敷地の建物配置，地域の風の流れ，隣地への日影の影響，眺望を阻害しないかなどをよく確認して，建物や空地の配置計画を考えましょう。
- ・ 特にまちなかにおいては，隣地建物の横には建物を，隣地の庭の横には庭を配置するなど，日照，通風について，隣地との協調を考えることが重要です。
- ・ 建物内に駐車場を設けるなど，建物をセットバックしなくてもよい工夫を考えましょう。

配置計画の
優良事例写真
(景観賞の受賞作品
等を活用)

配置計画の
優良事例写真
(景観賞の受賞作品
等を活用)

1	～まちに暮らす～ 隣地の状況，町並みを踏まえて，建物配置やプロポーシ ョンを計画する
例えば・・・	
② 町並みのもつスケール感に配慮する	
<ココが京町家！> ・ 京町家は，家並み，軒高などについて，突飛な意匠が抑制されてお り，統一感のある美しい町並みを創出しています。 ・ 統一感のある町並みとなっている要因のひとつに，通り庭の配置が 挙げられます。建物の東側又は西側が道に面する町家なら南側寄り，南 側又は北側が道に面する町家なら東側寄りに，通り庭が設けられるのが 基本です。「通り庭」と「部屋」が交互に並ぶことで，町並みに統一感 が生まれるとともに，通り庭が空間構成の「調整しろ」としての役割も 果たしています。	
町家の並ぶ町並み写真 通り庭の解説図	
<ポイント，アドバイス> ・ 敷地周囲の町並みを踏まえて長大な壁面を適切に分節するなど，建 物全体のボリューム感や各部分のサイズの比率など，全体のバランスを 地域の町並みに揃えて，圧迫感の軽減に努めましょう。	
優良事例写真 (景観賞の受賞作 品等を活用) 優良事例写真 (景観賞の受賞作品 等を活用)	

1	～まちに暮らす～ 隣地の状況，町並みを踏まえて，建物配置やプロポーシ ョンを計画する
例えば・・・	
③ 開口部の位置などプライバシーに配慮する	
<ココが京町家！> ・ まちなかの京町家は隣地と外壁が接しており，妻側には開口部があ りません。プライバシー確保のほか，延焼防止や防犯性向上といった効 果もあります。 ・ 郊外部の町家については隣地との間に塀などを建てるのが一般的 です。 <ポイント，アドバイス> ・ 隣地の状況を踏まえて，窓などの開口部の位置を決めましょう。	
● マンションなどの規模の大きい建物の場合は次のような点も 要チェック！ ・ 階段・廊下などの騒音対策 ・ 落下物対策 ・ ごみ置き場の位置や管理 ・ 駐車場の位置 ・ 室外機等の空調設備の騒音・排気	
配慮事項のイメージ図 配慮事項のイメージ図	
優良事例写真 (景観賞の受賞作品等 を活用) 優良事例写真 (景観賞の受賞作品等 を活用)	

1	～まちに暮らす～ 隣地の状況、町並みを踏まえて、建物配置やプロポーションを計画する
---	--

更に・・・

④ まちと緩やかにつながる仕掛けをつくと、なお good！

<ココが京町家！>

・ 格子と通り庭によって、表と隔てられている京町家では、内と外とがゆるやかにつながっています。

例えば、京町家の特徴的な意匠の一つである通り庇の軒下空間は、ある時は雨宿りに、ある時はゆったり床几を出して展示や休憩に、またある時は幔幕を張ってお祭りの空間にと、多様に使われ、通りの公的な空間と内側の私的な空間をつなぐ半公共的な空間を形成しています。

格子は、道ゆく人からは内側が見えにくく、家人からは外の様子が良く見えるようにできており、柔らかな防犯装置としての機能を持っています。

また、通り庭に入っすぐの場所は、店の一部や応接の場として使われ、来訪者とのコミュニケーションの場としての役割も果たしています。

このような、半公共的な空間が、コミュニケーションの場となり、地域とのゆるやかな関わりを生んでいます。

軒下空間の写真や図

格子の写真や図

通り庭やミセの間の写真や図

<ポイント、アドバイス>

- ・ プライバシーを確保しつつ、まちに開いた部分をつくってみましょう。
- ・ 玄関スペースを広めにとり、腰掛けられる空間を設けるなど、近所づきあいのきっかけの場や、来客時の柔軟な対応ができる場を考えてみましょう。
- ・ 地蔵盆などの地域行事に開放できるセミパブリックな空間をつくってみても良いですね（京都市では約8割の自治会・町内会で地蔵盆が行われています！）

優良事例の写真や図面
（景観賞の受賞作品等を
活用）

優良事例の写真や図面
（景観賞の受賞作品等を
活用）

優良事例の写真や図面
（景観賞の受賞作品等を
活用）

優良事例の写真や図面
（景観賞の受賞作品等を
活用）

ねらい・背景

そよ風、木漏れ日、季節ごとの草花、鳥のさえずりなど…人は自然を感じることで、疲れた心が癒され、和やかな気持ちを取り戻すことができます。そして、日本人は昔から自然の中で、自然と一緒に暮らしてきました。

昨今の住宅においては、空調機器による冷暖房効率を高める観点から、外部環境の影響をできるだけ小さくするため、屋内と屋外が明確に遮断された閉鎖型の住宅とする考えが主流となっています。しかし、こうした閉鎖型の住宅における生活は、自然との関わりが希薄となり、昔から日本人が大切にしてきた、自然を感じる心豊かな暮らしが失われる恐れもあります。

一方、京町家では、うまく自然を暮らしに取り込み、自然と付き合い、四季を楽しむ工夫を重ねてきました。例えば、郊外部で敷地に余裕のある町家では広い庭が設けられていますし、高密度居住のまちなかの京町家であっても、どんなに小さくても必ずお庭が設けられており、そのほんの小さな空間を活かして、風や光、植栽の緑を暮らしに取り入れています。

ただ、昔の伝統的な暮らしをそのまま受け継ぐ、ということでもありません。技術の進歩や時代のニーズに合わせて、新たな技術や考え方をうまく取り入れることも重要です。

つまり、大切なのは、自然をシャットアウトすることで快適な居住空間を造るのではなく、自然と上手に付き合えるような居住空間を造る、という考え方です。

新築等京町家では、空調設備などの現代の技術や新しい考え方も取り入れながら、四季や自然の移ろいを楽しめる、省エネかつ快適な暮らしを設計・提案してみましょう。

例えば・・・

- ① 風や光、自然が感じられる庭を設ける
 - ② しつらい空間を設ける
 - ③ 自然素材を使う
 - ④ 建物内の風通しや日射をうまくコントロール（建物でできる環境調整）
- ⇒ それぞれの解説は次ページ参照

例えば・・・

①風や光、自然が感じられる庭を設ける

<ココが京町家！>

- ・京町家ではどんなに小さくても必ずお庭が設けられています。
 - ・お庭の空間を通じて、心地よい風の通り抜けを感じることができます。
- 京町家では、隣の家と庭を連担させること、庭に植栽を施して表の通りとの温度差をつくること、奥から表まで通り抜けた空間（通り庭）があること等によって風の流れを作っています。
- ・まちなかでも自然を身近に感じ、四季の移り変わりを 느낄 수 있습니다!

町家の風通しの解説図



<ポイント、アドバイス>

- ・ 風が通りぬけるよう、お隣の庭の位置に合わせて、設置場所を決めましょう。
- ・ 庭を楽しむ縁側や季節感の創出など、細やかなアイデアを盛り込んでみましょう。
- ・ 落葉樹を植えると、季節の変化が楽しめるとともに、夏の日射遮蔽・冬の日差しの取込みといった環境調整ができます。
- ・ メンテナンスのことも念頭におきながら計画しましょう。



庭の事例写真
(景観賞の受賞作品等を
活用)

2	～四季や自然を楽しむ～ 四季や自然が楽しめるよう工夫する
---	---------------------------------

例えば・・・

②しつらい空間を設ける

<ココが京町家！>

- 床の間や飾り棚のお花や飾りを変えることで、季節や行事を楽しめます！

伝統的な京町家の写真
(季節のしつらい)

伝統的な京町家の写真
(花)

<ポイント、アドバイス>

- 床の間や違棚といった伝統的なしつらいに囚われず、柔軟なアイデアで設計してみましょう。
- 飾るものが引き立てられ、部屋に彩りが加わるような仕掛けを考えてみよう。

優良事例の写真や図面
(景観賞の受賞作品等を
活用)

優良事例の写真や図面
(景観賞の受賞作品等を
活用)

2	～四季や自然を楽しむ～ 四季や自然が楽しめるよう工夫する
---	---------------------------------

例えば・・・

③自然素材を使う

<ココが京町家！>

- 伝統的な京町家は木や土など全て自然素材で作られています。また真壁造りのため、木の柱や梁が内部空間に現れており、木の温もりを感じることができます。
- 土壁や珪藻土、漆喰などの塗り壁は、調湿効果があるので、室内の湿度を快適に保ちます。

伝統的な京町家の写真
(土壁や木)

伝統的な京町家の写真
(土壁や木)

<ポイント、アドバイス>

- 無垢の木や土壁・珪藻土等の左官壁、和紙、い草の畳など、仕上げに自然の素材を使うことで、自然素材の温もりや素材感を感じることができます。また、自然素材は使い続けるほど味わいが出てくるので、経年変化も楽しむことができます。
- 自然素材を使うことで、化学物質による健康リスクが抑えられるとともに、木のもつリラックス効果などから、健康にやさしい住まいになります。
- 地域産木材を利用すると、材料輸送時に排出されるCO₂を削減でき、環境に配慮することもできます。

優良事例の写真や図面
(景観賞の受賞作品等を
活用)

優良事例の写真や図面
(景観賞の受賞作品等を
活用)

例えば・・・

④建物内の風通しや日射をうまくコントロール（建物でできる環境調整）

<ココが京町家！>

- ・京町家では、取り外せる建具、格子、奥から表まで通り抜けた「通り庭」、隣と連担させた奥庭・坪庭などの工夫により、可能な限りの風通しを確保してきました。
- ・京町家の深い軒・庇は、夏は日射を遮り、冬は日差しを取り入れることができます。
- ・これらにより、夏の暑さ、冬の寒さを緩和し、自然との共生を図ってきました。

風通しの解説図

軒・庇の図

<ポイント、アドバイス>

- ・地域の卓越風向や近隣の建物配置を踏まえながら、風の通り道を設計しましょう。
- ・木造建築は風通しが大事です。常に新しい風に当てることで、建物を長く維持することができます。
- ・夏の日射遮蔽だけでなく、冬の日射熱取得にも配慮しましょう。
- ・開口部への日射を遮るには、軒・庇以外にも、紙障子、ブラインド、すだれ等を組み合わせると効果的です。
- ・壁、床、屋根、窓などをしっかり断熱することで、夏は涼しく冬は暖かく快適に過ごせます。
- ・縁側やサンルームなど、温熱環境上のバッファゾーンを設けると居住空間の快適性向上に寄与できます。

優良事例の写真や図面
（景観賞の受賞作品等を
活用）

優良事例の写真や図面
（景観賞の受賞作品等を活用）

ねらい・背景

京町家は、維持修繕していくことを前提とした建物であり、容易に修繕することができるように、様々な工夫がされています。また、出入りの大工によって日常的な維持管理が円滑になされてきました。

また、畳や建具などは決まったサイズで作られており、再利用や入れ替えが容易にできます。

環境面からも、「つくっては壊す」というスクラップ&ビルド型から、「いいものを作って、きちんと手入れをして長く大切に使う」ストック活用型へと、考え方を転換していく必要があります。建築コストが少し高くても、良いものをつくることで、長く使い続けることができ、トータルで考えるとコストパフォーマンスの高い住まいになります。

ちなみに、日本では昔から、長く大切に使ってきたものには、魂が宿ると考えられてきました。「MOTTAINAI（もったいない）」という言葉が世界にも広がっていますが、物を大切にする精神は日本の文化とも言えます。

手入れしながら長く大切に使うことで、思い出が刻まれ、愛着がわきます。そのような大切にされてきたもの、大切にできるものに囲まれる暮らしは、私たちの心をより豊かにしてくれるのではないのでしょうか。

世代を超えて大切に使用してもらえる建物になるよう、設計してみましょう。

例えば・・・

- ① 経年変化を楽しめる工夫をする
 - ② 適材適所 材料の性質を活かして設計する
 - ③ メンテナンスしやすいようにする
 - ④ フレキシブルな空間にする
 - ⑤ 建具や部材の再活用ができるようにする
- ⇒ それぞれの解説は次ページ参照

例えば・・・

① 経年変化を楽しめる工夫をする

<ココが京町家！>

- ・ 京町家は木や土、石など自然素材で作られていますが、自然素材は使い続けるほど味わいが出てきます。

味わいある京町家
の写真
(外観)

味わいある京町家
の写真 (内部)

<ポイント、アドバイス>

- ・ 仕上げ材には傷や経年変化も味になるような素材を使ってみましょう。

味のある
素材写真等

優良事例の写真
(景観賞の受賞作
品等を活用)

優良事例の写真
(景観賞の受賞作
品等を活用)

3	～大切に使う～ 大切に長く使い続けられるよう工夫する
---	-------------------------------

例えば・・・

② 適材適所 材料の性質を活かして設計する

<ココが京町家！>

- 木材には様々な樹種がありますが，土台には栗・ヒバ・桧など，柱には桧・杉・松など，梁には松など，といったように，京町家では材料の特性を活かして使用箇所毎に木材を使い分けています。
- 木材は自然素材なので，同じ樹種でも1本1本それぞれ異なります。昔は大工さんが，木材を1本1本吟味し，個性を活かして使用していました。また手刻み加工により，複雑な継ぎ手・仕口にも対応でき，品質の高い建物にできました。

町家における樹種使い分けの解説図

主な木材の樹種ごとの特性の解説

<ポイント，アドバイス>

- 材料の特性を理解して，その能力を最大限発揮できるよう使い分けることで，合理的で長持ちする建物にできます。

新しい素材
特性の解説

3	～大切に使う～ 大切に長く使い続けられるよう工夫する
---	-------------------------------

例えば・・・

③ メンテナンスしやすいようにする

<ココが京町家！>

伝統的な京町家は，腐食した部材は取り替え，緩んだ接合部は締め直し，屋根は葺き替え，壁は塗り替える等，容易に修繕することができるよう様々な工夫がなされています。

町家の修繕工事中の写真

町家の修繕工事中の写真

<ポイント，アドバイス>

- 設備機器，配線等の点検，補修が容易な構造とし，メンテナンススペースを確保しましょう。
- 定期的に更新が必要になるようなものについては，取り替えが容易にできるようにしましょう。
- 日々のお手入れ，掃除がしやすいような工夫を考えてみましょう（天窓や吹き抜け部分の照明設備等，手の届きにくいような部分は特に工夫をすると良いでしょう。）

優良事例の写真や図面
（景観賞の受賞作品等を活用）

優良事例の写真や図面
（景観賞の受賞作品等を活用）

3	～大切に使う～ 大切に長く使い続けられるよう工夫する
例えば・・・	
④ フレキシブルな空間にする ＜ココが京町家！＞ - 京町家は、ふすまや障子といった簡単に取り外せる建具や、つい立てや屏風といった「しつらい」の道具類等により、必要に応じて多様にその空間を使えるようになっています。家族の年齢や世帯構成の変化に応じて使い方を変えられるほか、様々な用途で使うことも可能であり、現在でもすまい以外に、店舗やシェアオフィスなど様々な活用方法で使い続けられています。 図面や写真など 図面や写真など ＜ポイント、アドバイス＞ - 将来的な家族構成やライフスタイル等の様々な変化に合わせて柔軟に対応できるように、工夫してみましょう。 例えば * 間仕切りを自由に変えられるようにしたり、ひとつの空間を多用途に使えるようにする。可動する棚や壁を設けるとレイアウトの自由度が高まります。 * 将来を見越してバリアフリーやユニバーサルデザインにしておく。 優良事例の写真や図面 (景観賞の受賞作品等 を活用) 優良事例の写真や図面 (景観賞の受賞作品等 を活用)	

3	～大切に使う～ 大切に長く使い続けられるよう工夫する
例えば・・・	
⑤ 建具や部材の再活用ができるようにする ＜ココが京町家！＞ 京町家では寸法（モジュール※）が統一されており、畳や建具などの再利用や入替えが簡単にできるようになっています。 ※ 京町家は、畳の寸法（6.3 尺×3.15 尺）を基準として、部屋の大きさ、柱の位置を決める内法制の寸法ルールで建てられています。 町家のモジュールの解 説図面など 町家のモジュールの解 説図面など ＜ポイント、アドバイス＞ - 古建具や古材を活用してみる。 職人さんが手作りで造った古い建具や手すきガラスなど、良質で貴重なものを再活用することで、環境面にやさしいだけでなく、愛着を持って大切に使うてもらえることが期待できます。 - 使い捨てではなく再活用できるよう、良質な素材を使ったり、寸法に配慮してみよう。 古建具の活用事例写真 (景観賞の受賞作品等を 活用) 古建具の活用事例写真 (景観賞の受賞作品等を 活用)	

ねらい・背景

京町家は一敷地の中に建つ単独の建物でありながら、まちや景観をつくり出す要素となっています。

まちなかでは、家が軒を連ねて、連担して町をつくっていますし、郊外部においては、ゆとりを持って家々が建ち並ぶことで、各地域ごとのまち並み景観を形成しています。

建物の外観は、一軒一軒、細かな違いがありますが、地域のルールを育て、守ることにより、全体の調和を乱すようなデザインを避けて、洗練された統一感のあるデザインが継承されてきました。

「京都らしい」魅力的な町並みを作り出し、継承していくには、そこに住まう人々の町に対する愛着や誇り、建物や暮らしについての共通のルールが大切です。

新しく建てる建物も、京都の町並みを形作る大切な一要素になります。場所になじむ建物となるよう、地域の建築様式、伝統的なお祭り、これまでの歴史など、その地域の特徴、特質をよく理解し、尊重して設計しましょう。

例えば・・・

● 地域特性を踏まえ、まちになじむデザインとする

⇒ 解説は次ページ参照

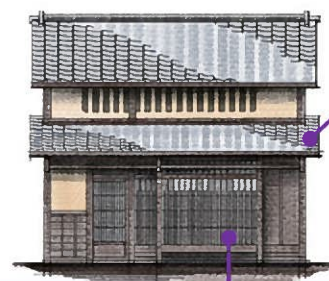
例えば・・・

● 地域特性を踏まえ、まちになじむデザインとする

<ココが京町家！>

- ・ 多彩な様式や突飛な意匠を抑制しつつ、棟の高さや格子の意匠など細かな違いにより変化を生み出し、洗練された魅力的な町並みを形作っています。

まちなかや街道筋の例（つし二階）



通り庇

通りに向かって間口いっぱいに設けられた庇。軒下は通りと一体的な利用がなされ、通りの公的な空間と内側の私的な空間をつなぐ半公共的な空間として多様に使われています。また、隣と連なることで、統一感のある町並みを生み出しています。

格子

光や風を通しながらも、道ゆく人からは内側が見えにくいですが、家人からは外の様子が良く見えるようにできており、柔らかい防犯装置としての機能を持っています。

大塀造や郊外部の例



総二階（本二階）の例



＜ポイント、アドバイス＞

- ・ 歴史的に京町家が立地していた地域では、既存京町家となじむよう、平入りや通り庇といった要素を取入れ、連担させるなど。
- ・ 同じ京都市内でも、地域によって、共通する建築要素が微妙に異なるので、その地域の伝統的な住宅の建て方や、共通のルール、どのような特性のある地域なのか、といったことをよく調査しましょう。

【地域の特性、歴史、文化の調べ方】

- ・ 「地域景観づくり協議会」など、まちづくり活動が活発な地域では、その地域の特徴や何を大切にしているかが、計画等としてまとめられていることがあります。
- ・ その地域では何を大切にしているのかを知るためにも、特に規模の大きい建物を建てる場合は、計画確定前から地元と対話することが大切です。
- ・ 歴史等は、その地域に昔から住んでいる方にお話を伺ってみることや、以下のような文献も参考になります。
(参考文献の例)
 - － 京都市明細図
 - － 「日本歴史地名大系第27巻 京都市の地名」
(株式会社平凡社)
 - － 「史料 京都の歴史」(株式会社平凡社)

＜ポイント、アドバイス＞

- ・ その地域の伝統的な意匠をそのまま再現するのも一つですし、伝統的意匠や地域特性を踏まえつつ、新たな解釈をして、現代的デザインでもうまくなじむように創意工夫するのも一つです。意匠設計の腕の見せ所です。

優良事例写真
(景観賞の受賞作品等
を活用)

優良事例写真
(景観賞の受賞作品等
を活用)

優良事例写真
(景観賞の受賞作品等
を活用)

優良事例写真
(景観賞の受賞作品等
を活用)

- ・ 昔からの地割りも大切にしましょう。

ねらい・背景

京町家は、木はもちろん、土や紙などの自然素材を用い、「伝統構法」と呼ばれる日本伝統の工法と、職人たちが長年にわたって受け継いできた様々な伝統技術によって作られており、地球環境や健康への関心の高まりとともに、再び注目されています。

瓦や土壁は、緩やかに統一された京都の美しい景観を作り出している大きな要素の一つであり、耐久性や耐火性にも優れています。

木組み、柱、梁の現しの造形は美しく、また、格子や木割り等の繊細な意匠は、日本人の美意識を育んできました。

また、木、畳、土壁や和紙を用いた障子といった自然素材を室内に用いることにより、温かみのある空間を作り出すとともに、快適な湿度の確保など、室内環境を向上させます。

近年、日本人の生活様式の変化や建築技術の近代化の中で、伝統的な技術を使用する業務は減少し、さらに、技術者の高齢化などにより、職人の減少が顕著となっています。

「(仮)新築等京町家」では、伝統技術・技能を活かした建築や空間を推奨するだけでなく、伝統ある技術を現代に継承することも重要な役割の一つと考えています。

例えば・・・

- ① 畳スペースを設ける
 - ② 木組み、左官等の伝統技術・技能を生かした構法や材等を採用する
 - ③ 古建具や古材を活用する
- ⇒ それぞれの解説は次ページ参照

例えば・・・

① 畳スペースを設ける

<ココが京町家！>

- ・ 畳は表面に弾力性があり、足腰への負担が少なく、直接座ったり寝転がったりすることもできます。
- ・ い草は自然素材であり、また転んでも衝撃を吸収してくれるので、小さな子供がいても安心して遊ばせることができます。

<ポイント、アドバイス>

- ・ 畳には断熱効果、調湿効果などもあります。また防音効果もあるので、階下への騒音が気になる共同住宅にもオススメです。
- ・ 伝統的な座敷（真・行・草）から、リビングの畳コーナーまで、様々な取り入れ方があります。使い方や生活スタイルに合わせて設計してみましょう。

優良事例写真
(景観賞の受賞作品等
を活用)

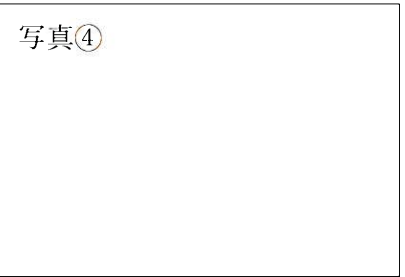
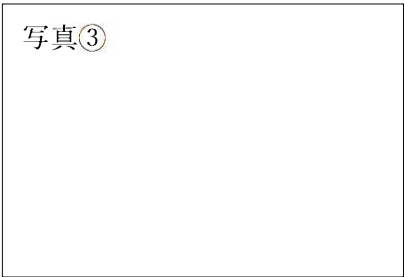
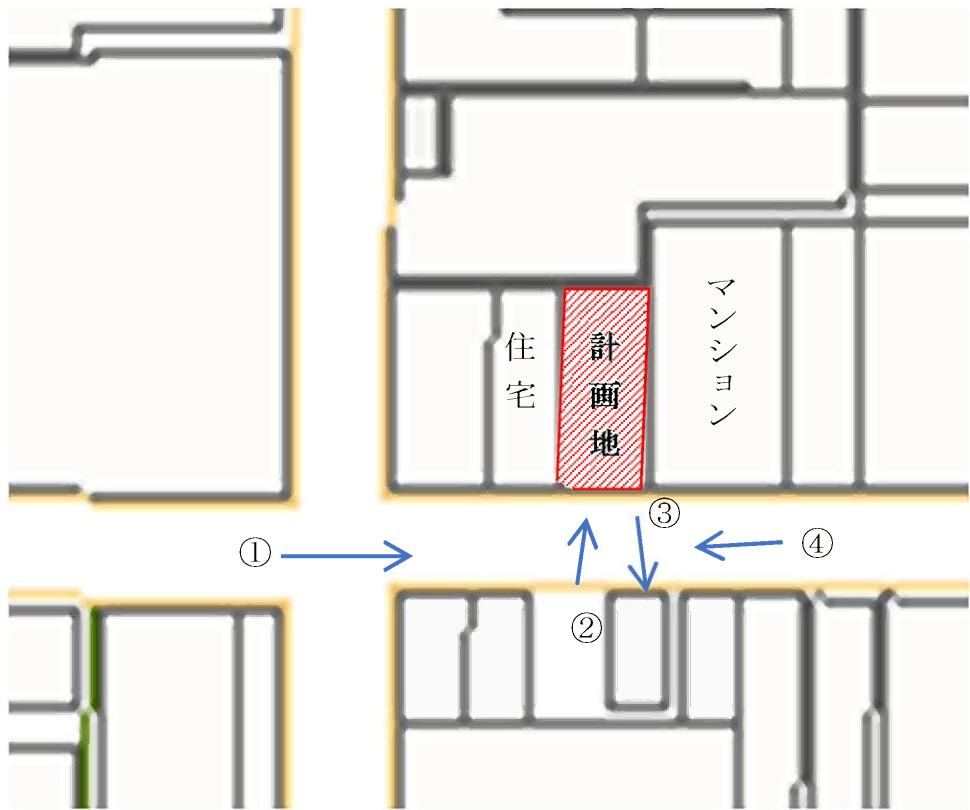
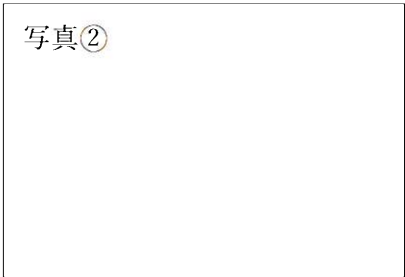
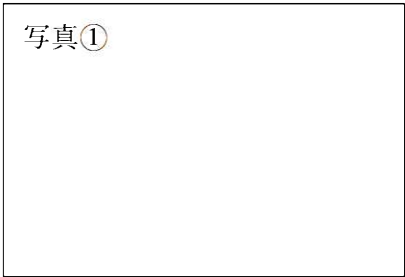
優良事例写真
(景観賞の受賞作品等
を活用)

敷地・地域の特徴（非公開）

住所	区町（学区）	町並みの特徴
都市計画制限	用途地域 容積／建ぺい 防火／高度 景観地区	
地域のまちづくりの方針等	地域のまちづくりの方針や、地区計画・建築協定・町式目など地域のルールを記載	歴史・文化

隣接地の状況（配慮すべき事項）

北側	東側
南側	西側



設計シート（公開用）

プロジェクト名：●●の家

設計コンセプト	計画概要
	区 町（ 学区）
	敷地面積：
	建築面積：
	延べ面積：
	木造 2 階建て，専用住宅

配慮・工夫した点

指針 1 ～まちに暮らす～ 隣地の状況，町並みを踏まえて，建物配置やプロポーションを計画する

指針 2 ～四季や自然を楽しむ～ 四季や自然が楽しめるよう工夫する

指針 3 ～大切に使う～ 大切に長く使い続けられるよう工夫する

指針 4 ～京都になじむ～ 地域特性や歴史を踏まえて設計する

指針 5 ～技を感じる～ 伝統技術・技能を活かしてみよう

コメント（任意）

（例：京町家に対する考え方など）

各配慮・工夫した点についての説明図

注）このシートは公開されます。

